

ただ、この講堂は国リハで訓練を受けている人たち 200 名ぐらいの方の通常の火災の避難訓練の集合場所です。ですから、もしも災害が起こって、宿舎が壊れますと、利用者が講堂を使うかもしれません。

2つ目の福祉避難所としての避難訓練については、たまたまここを会場にして、研究として避難訓練ってどんなものかなってというのはやってみたいなと思っています。それに関してはここを管理する部署と事前に連絡をする話はしてあります。どんな形の避難訓練をするのがいいのか、どういう方がご利用になるのか、下調べをしていきたいと思っています。

3つ目の、運営委員会なんですけど、通常の避難所っていうのは町内会が運営してらっしゃいます。ここはそういう意味での自主運営組織はないんですね。いざという時に市役所の職員さんが1名は来てくださるかな、とちょっと期待もしますが、確約はできないと思います。本当にひどい、災害の時には、過去の例では最初はその施設の管理者が運営をせざるを得ない状況でした。それから市の職員が来て、自主運営組織に移行していく。その自主運営組織の自主性が高く、公平性が高いほどうまくいくというふうに経験談には書いてあります。福祉避難所の性格上どうしたらいいのか一緒に考えながらしかできないかな、というふうに思っています。障害福祉課長、何かまずい点があったらフォローしていただけますか。

障害福祉課長：あ、大丈夫です。

北村：そんなところでよろしいでしょうか。

B：ありがとうございます。

司会：はい。ではこの講演終わりましたら、正面玄関脇の避難所を、見学をさせていただけるそうなので、立ち寄ってみていただきたいと思います。

北村：福祉避難所になった時に停電してるかもしれませんので、途中で電気をわざと切ってみますので、驚かずに、安全を確保してください。

施設としては、講堂は磁気ループも入っています。ただ、停電すると、磁気ループは使えません。それから、センター全体としては自家発電もありますが、燃料がないと動きません。また、優先順位があって、医療的なケアが必要な方から電気を使うことになると思うので、講堂に電気が来るのかどうか何とも言えません。それから、1階のトイレも見ていただきたいんですが、操作パネルが全て電気になってます。ですから、停電すると、バリアフリーではあるんだけど、水洗を流せなくて、1回ずつ凝固剤を入れなければいけない状態になると思います。

司会：そのほか、ご質問、ございますでしょうか。

車いす利用者が避難する場所

C：あの、障害者（車椅子利用）なんですけども、町内会は何も分からないんです何をしたいか、どこへ逃げていいか。どうしていいか、全然分からないんですけど。何かそういう……。町内会長さんに言えば何とかしてくれるんですか。

北村：一緒に考えるんだと思います。

C：一緒に考えるってことは、その場所へ行かなきゃならないってことですか。

北村：事前に場所に行ってみて、そこで暮らせるかどうか見ないと分からないと思うんですね。「指定避難所に来てそこにいるのは無理」っていう場合も多いと思います。今、モニターと方たちに一緒にやろうと思っていますので、モニターをしていただいたら一緒に考えさせていただきます。

C：あの、災害が起きちゃった場合、どこに逃げたらいいですか。

北村：それは、考えなきゃいけないですね。誰でも。

C：普通の人はずっと避難所がありますけど、そこまでも行けませんのでね。車いすは。したらどうしたらいいのかなと思って。

北村：近所でどこに行けるかなというのを探しませんか。

C：そうなんですか。

北村：まず自分の家をできるだけ安全にしておく。それから近所に「あそこなら絶対大丈夫。」というところを探す。公民館とか保育園とか。お寺とか。何があるか探してみるっていうところから始まると思います。

C：そう。探して。まあ、お寺とかもありとか。そこまで行けたらいいんですけどね。

北村：行ける範囲で何があるのか考えましょう。行ける範囲に本当にもしものなければ、自宅で頑張れるように、考えましょう。自宅で頑張るのは厳しそうですね。

C：連絡は。連絡はどうしたらいいんですかね。

北村：連絡。何が心配ですか。

C：どうしていいかわからないものね。逃げるところもないって。ねえ。

A：その件でちょっとよろしいですか。

北村：はい。お願いします。

A：災害発生した時に、どうやって避難したらいいか、どこに行ったらいいかって疑問だとは思いますが。町内会とか自治会の会員にはなってますか。

C：町内会には入ってますけど、町内会長さん知らないです。

A：回覧なんかはご覧になりますか。

女性C：はい。回ってきますよ。

A：そういうものは目を通されていますか。

C：はい。さっと。

C：避難所の場所は分かりますよ。あの、Xって書いてありましたが、そこまでも行けないからと思って。

A：要援護者としての登録はされていますか？

C：出しました。

A：そうしますと、いざという時の支援の方は決まってるんですか。

C：いえ、全然聞いてません。

A：じゃあ、危機管理課さんの方へちょっと話をしてみたいと思います。

C：それでは待っていただければいいんですか？

A：課長さん、どうすればいいか教えてください。

障害福祉課長：障害者課長です。質問の方のお答えになるかどうか分かりませんが、要援護者登録いただいた方の中で、特に荒幡地区や山口などの先進的な地区については、先ほどご紹介があったとおり、複数の支援者がつくように、かなり努力がなされています。個人情報の理解をいただいて、複数の支援者がつくことになったということです。ただし、支援者が誰がつくというふうにはこれから決まるという段階です。

C：ああこれからですか。分かりました。

北村：待っていただければ町内会が決めてくれるというわけではないので、各自で町内会に問い合わせることが必要です。

障害福祉課長：先ほど申し上げたとおり、要援護者については、障害者の方以外に高齢者の方も登録いただいています。しかし、市役所の登録方法だと、お手上げいただいた方、つまり、皆さんのお名前等、自治会の方や市役所で把握しても良いという方だけですので、かなり少数です。

また、要援護者の情報が、実際には自治会の方にも届いてません。先ほどの荒幡町内会のお話の中で、素晴らしいなと思ったのは、支援を自治会の方で考えていただいている例でした。現実には、地域の方に支援をしていただくことを、皆さんの力で、お願いしたいところがございます。障害者の方には個人情報の提供についてご理解いただいて、「ここに私がいいますよ」ということを自治会の方、市役所、あるいは消防等にお知らせいただかないと、安否確認も難しいのではと思っております。

逆に手帳取得の方に関して市役所が持つ情報を流すことは、本人の承諾がなければできません。特に災害時における支援は、皆さんで構築いただくしかないといわれています。

市役所の職員として、一市民としてそう思っていますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

C：障害者の人は市役所の方へ連絡して、その後はどこへ行けばいいんですか。

北村：地域の人と相談して、どこがいいかというのを相談したらどうかな、というふうに思っています。

C：何にも言ってこないし、●もあんまりいないから。

北村：全国的に、何も言ってこないところが圧倒的に多いです。

C：●は分かりますよ、うちのところは。でもねえ、支援者もいるかないかも分からないし、逃げるところも分からないし。いや、●ますけどね、何かちょっと中途半端で。市役所で登録して……。

北村：モニターで、応募していただけたら、一緒に来年度、考えましょう。

司会：はい。ありがとうございました。では続いてどうぞ。

D：私は、所沢市の民生委員連合会の方に、障害者福祉研修部会というのがございまして、そちらの方の副代表をしております。

私どもも、民生委員としましては、65歳以上の方の高齢者の方につきましては、市の方から情報をいただきまして訪問させていただいたり、日頃安否確認させていただいたりしています。また、民生委員各自から情報もたくさんあるんですが、障害者の方の情報というのは障害福祉課長がおっしゃいましたように、個人情報その他の関係から、資料の提供をいただいております。

ぜひ、障害者の方の情報も民生委員の方にくださいというお話しをしてるんですが、本当に障害者の方って数が多くて、障害の程度もいろいろとございます。ペースメーカー着けてらっしゃる方だけでも障害者になってしまったりとか、いろいろございます。情報は私どもも持っておりません。65歳以下の方のことは、地域内にいらっしゃる方でも分からないというのが実状でございます。そういう方がいらっしゃるということが分かれば、民生委員もご訪問させていただいたり、そういうご相談に乗らせていただいたりとかっていう気持ちは持っております。今、いろいろお話ししてくださった方も、後ほどあのご住所を伺いましたが、詳しいご住所とお名前を教えていただければ、私どもの障害者部会を通じまして、そちらの民生委員の方に情報等伝えてよろしければお伝えさせていただいて、訪問させていただくなり、ご相談に乗らせていただければ、いくらかでもお役に立てるのではないかなと思っておりますので、よろしければどうぞ後ほどお知らせください。お願ひします。

司会：ありがとうございました。続いてお願ひいたします。

聴覚障害者への避難情報

E：ありがとうございました。私は聴覚に障害があり、要援護者登録は済ませました。実際防災無線等での避難勧告を知る手段がないのですが、そのような時は誰かが知らせに来てくれるのですか。その人が既に決まっていたとしたら、私自身は誰が来るかということは知らされていません。また、無事に避難できたとしても、避難所での情報保障がなされるかどうかという不安があります。

北村：地震が起きたことは分かりますよね。身の安全を確保するのはご自分でやっていただけますよね。逃げるタイミングは、所沢だと津波はないと思うので、「ご自宅が住めなくなったら逃げる」というのでいいですよ。逃げる先は、最寄の避難所でいいですか。で、その最寄の避難所に手話通訳者がいると安心、という考え方でいいでしょうか。

手話通訳者をそこにどう手配できるかは、これから解決しなきゃいけないところだと思います。同じ避難所に逃げるはずである手話ができるお友達がいると一番簡単ですが、そういう方はいらっしゃいますか。

E：無理だと思います。たとえ無事に避難したとしても、被災者同士で助けあう余裕があるかどうかわかりませんし。避難場所の数も多いし、災害が大きければ亡くなる場合もあるでしょう、頼んでおいても実際にことが起きたときに協力してもらえない保障は得られないと思います。

北村：避難所に行ったらまず受付で、「手話通訳が欲しい」と言っていただくのが第一だと思います。それから急に言っても、避難所の運営委員会もどうしたらいいか分からないと思うので、避難訓練行っていただいて、たとえば「いざという時には手話通訳が要るので、手話通訳を手配する方法を一緒に考えましょう」と申し出てください。一般の人は、手話通訳をどこに頼んだらいいのか知らないで、通常、どこにどう頼んでいるのか、というのを教えてさしあげて、災害時そこに連絡がつくかどうか、電話がつかないという状況の時に、どうやったら連絡がつくかを考える必要があるんだと思います。筆談でよいなら自分で紙とペンを持っていて頼めばいいのか。どういう場面で書いて掲示して欲しいのかを事前に打合せをしておく必要があると思います。そんな手順でどうでしょう。

E：ありがとうございます。

災害時要援護者支援を地域で行う理想形は？

司会：後ろの方、はいどうぞ。

E：えーと、ボランティア連絡協議会で広報を担当しています。今後どういうふうに協力するか。昔は、戦前ぐらいまでは隣近所はみんな顔見知りだった。

こういう状況になればいいんだと思うんですけど、何かいっぱいシステムを考える、というのが官僚的なやり方だなというような気がするんですけど、先生が考えておられる、こういう研究をやって、こんなシステムが一番いいんだ、理想のシステムというものがあれば教えてください。それを目指して、どういうふうにしていくかというのを考える方がやりやすい気もするんですが、どうでしょう。

北村：まだ所沢での研究は始まったばかりで、理想形はできていないんですが、官僚的なシステムというのは実際動かないということはどこでも言われていて、平時からの人間のつながり、焼き芋大会しましょうとか、運動会しましょうとか、そういう町内会の日々の活動を災害時に活かそうというところが多いです。

私は先に立って運動会やりましょうとかいうのは苦手なんです（笑）、そういうのをやっていただける、町内会があるといいなというふうに思います。

それからもう1つは、連絡に関しては日々技術が更新していて、この間、東日本ではTwitterがとても有効だったといいます。例えばTwitterで「私はこれからどの避難所に行きます。手話通訳1名必要です」というふうに流すと、来るかもしれない。というのがあります。いろんな方法を使う、メールでも、Facebookとかソーシャルネットワークとかいろんなのがあります。そこで「自分はこれが欲しい」という発信をするのがもう1つと思います。

ただ、それも個別だと対応がしにくいので、ある程度チームを作って、その、聴覚障害者の組織とか、手話通訳者の組織とかそういうところであらかじめ連絡をしておいて、「ここには何人ぐらい必要な方がいらっしゃるから、無駄かもしれないけど行ってみよう」というようなこと。行った時に、顔が分かっていたらすぐに支援に入れるので、常日頃からのつながりが必要だろうなと思います。

ぜひ皆さまにご協力いただきたいところで、ぜひみんなが楽しめる、楽しんで人間関係を作れるものを作れたらいいなと思います。ということでもいいでしょうか。

要援護者名簿を民生委員、自治会で利用するための条例について

H：Z町で民生委員をやっていますHと申します。12ページ目の資料の、「災害時対策で、要援護者の名簿を障害者に提出を条例化／横浜」ってあるんですけど。所沢市役所は、障害者において一切、個人情報をも民生委員にも教えていません。手上げ方式で手をあげた方

だけが「あ、この人が知的障害者なのか」ってようやくわかるんです。65歳以上の人だったら分かりますけど。若い障害者の情報はありません。こういうふうな方たちを、市役所としては今後どういうふうに対応していくのか、横浜方式みたいに、ある程度こうやって、情報を町内会なり民生委員に提供していただけるのか。これらを市がどういうふう考えているのか、というのと、ここにも書いてありますけれど。「2,100人支援者が見つかっていない」と。お手上げ方式で登録した人29人のうち実際に10人ぐらい、断られたというのは、やっぱり近所に知られたくないって言うんですね。町内会の人が行けばよろしいんですけど、民生委員と行くと相手も心を開いてくれるということで、民生委員と町内会の役員と訪ねて「要援護者に登録されましたけど。ご近所の方に支援をお願いしたいんですけど」と言うと、「近所には知られたくない」と答えられました。先ほどA会長が言ったように、「これは市役所とか警察とか消防が手助けしてくれるんじゃないのか」ということがありました。登録したはいいいけど、誰が支援してるか分からないっていう、ことを何とか解決していかなくちゃいけないんじゃないかと私は個人的に思います。

北村：市役所さんに振る前にちょっとコメントさせていただくと、横浜は海があります。横浜駅も水没すると言われてるので、かなり所沢とは緊迫感が違うというのはあると思います。近隣では条例化を初めてしたのは渋谷区なんですけど、渋谷区も繁華街で、大火事がおこるのではないかという、そういう緊迫感があります。条例を作るという方向性と逆ですが、ちょっと前振りが長くなって恐縮ですが、障害のある方が「私、こういう状態です」というふうに、民生委員さんに申し出になるのもいいなと思います。担当の民生委員さんが分からなかったら、市役所福祉総務課に「この地域の民生委員さん誰ですか？」って聞くと、名前、住所、電話番号を教えてくださいとあるので、ご心配なことを相談に行くというのがあります。

では、障害福祉課長、何かいただけますか。今日は市役所の方に、お返事していただくために来ていただいたわけではないので、恐縮なんですけれども。

障害福祉課長：直接担当ではないのですが、先ほど質問された方のおっしゃったとおり、この横浜の条例は画期的なものだと思っています。ただし、先ほど言ったとおり、情報を流せば自治会に支援する体制が整ってるかどうかというのは非常に難しいことだと思います。継続的にやっていかなければならないとなると、単純に市で持っている情報を自治会にお渡しするというのはそれこそ一番最初に申し上げた官僚的なことで、何か押しつけになってしまうこともあります。

現実に、どこまで責任持って市民の方に受け入れられるかと言ったら、議論が必要だし、理解が必要だと思っています。情報というのは生き物ですから、正しい情報を正しく把握することでは、地域の住民の方同士のつながりとか大切なのかなと私自身は思っています。今日の情報と1週間後の情報は実際が変わってしまうのが現実ですから、そういった意味では地域の方の結びつきは最後の肝と、私はそう考えています。

司会：はい。ありがとうございます。もう時間がだいぶ押してきましたので、ここでもう一方、最後に。

Z町内会長：今取り上げられた個人情報の関係ですけれども、長野県では、民生委員と行政が協議をいたしまして、「民生委員活動と個人情報の取扱いに関するガイドライン」

<http://www.pref.nagano.lg.jp/syakai/comofuku/minsei-guideline/minsei-guideline.htm>を作りました。個人情報の「本人の利益につながるものについては……」というところの解釈をきちっとやりまして、こういう本当に命に関わるケースについては、行政が持っている個人情報を民生委員との間で共有しますよという取り決めができてるそうです。

私が住んでるところでも、高齢者がだんだん増えてくるという中で、町の中の暮らし方、考え方を変えていかなくちゃいけない。ということで、お互いに隣近所の人に対して関心を持つ、という意識を持っております。

情報を出せば受け皿が準備されているのかという考え方もありますけれども、現在の町を考えた場合に、少なくとももう少し、所沢市でも前向きに検討していただくということが必要であらうというふうに思っております。

避難所での聴覚障害者への情報保障

司会：ありがとうございました。もう一方。はい。では、最後のご質問とさせていただきます。もう時間も迫っておりますので。

G：講演ありがとうございました。災害が起きて避難所で生活をしなければならなくなった時どのように情報を得ればよいのでしょうか。皆さんは周囲の会話からも情報を得ることができますが、私たちには情報音声情報というものは役に立ちません。支援物資等の配布があると放送されても聞こえないわけですから、食事が配られたことを知らずに空腹のまま過ごすようなこともおきかねません。コミュニケーションが取れないことで、様々な苦しいことが避難所でも起きるだろうと思っています。

北村：さきほどのご質問の後半と同じ回答になってしまいますが、まず避難所に行ったら、手話通訳とか筆談が必要だということを受付で申し出てください。忘れられてしまうので、放送する時には必ず書き出してもらえるような工夫をかんがえる必要があると思います。

私たちの同僚のろう者が、たまたま3月11日に仙台に出張していて、避難所生活を何日間かしたんですけれども、とても困ったということでした。1度申し出ても、避難所の運営スタッフが変わってしまうので、しょっちゅう言わなきゃいけない。だから、運営スタッフに伝わるような方法が必要です。マイクに「放送したときは書き出すこと」と書いて張りつけておくとか。

それから行く避難所が決まっていれば、避難訓練の時に、「自分が来るのでこういう配慮が必要だ」という連絡をするとよいと思います。地域であっても避難所のスタッフは変わりますので、毎年言い続けることかなと思います。

それから、紙やペンを持っていく。自分が見やすい見本を持って行っていただくというのがあると思います。

それから、聴覚の方は並んでるのが見えるけど、視覚の方は見えないので、ろう者の同僚が配給された食事を視覚障害者に持ってってあげたそうです。視覚の方も、「私は見えないから、ごはんが来たら呼んでください。」と伝えたり、近所の方が「この人、こういう配慮が必要なので、ちょっと見て」と、そういう関係が作れるといいなと思います。言わなくてもできるよう、日頃から知りあっているのがベストなんだろうなと思います。

ただ、聴覚障害の方はもともと、手話の使える方同士で生活することが多いので、普段、周りとお付き合いがないということもよく伺います。コミュニケーション方法の違いと、そこから来る文化の違いをどういうふうに克服するか、という問題は大きいかなと思います。

G：ありがとうございました。

V連：今の質問に対してなんですけれども、ボランティア連絡協議会の中にも手話ができるサークルが2つほどあります。そういったところを、活用していただければと思っております。サークル活動ですので、地域全体に広がっているということではありませんけれども、日頃、そういうサークルに来ていただいて、そして交流を図りながら連絡が取れたらいいかな、というふうに思っています。所沢手話サークルと、手話サークル一二三というグループです。

司会：はい。ではもう一方、最後のご質問として。

D：ホワイトボードで10cm四方ぐらいのがあるんですけれども、それを、備蓄倉庫の中にマジックと一緒に備えていただければいいと思います。もし、もっと大きいのであればさらにその方がよろしいと思います。

聴覚障害の方のためっていうよりか、どなたにでも役に立つと思うんです。掲示板として役に立ちますので、それを備えていただいて、配布状況とかの伝達事項をお伝えするために使えると思います。

北村：もう1つだけつけ加えさせてください。書くっていうのはいろんな方に便利で、発達障害のお子さんは、並んでるのが見えてても、何に並んでるのか分からなくて並ばない場合があります。「ごはんを配ってるから列の後ろに並んでください」と書いていただかないと、後ろじゃなくて真ん中に行っちゃうかもしれないなかつたりもするので、いろんな方に、使える方法でもあると思います。

それから、「トイレ行ってていなかった間に連絡が終わっちゃった」っていうこともあると思いますので、色々な人のニーズを地域で出し合うことは大事だと思います。「うちはこれあったらいいんじゃないの」というものを、備蓄倉庫に何を入れるかを誰が決めるかまでちょっとまだ調べてないので、危機管理課の方に伺ってもみますけれども、100円ショップで買えそうなものもありますので、町内会でもいいですし、自分で持ち込むかを事前に検討しておくといいと思います。

閉会

司会：質問たくさんありそうなんですけど、もうかなり経過しておりますので、このへんで質疑応答は終わらせていただきたいと思います。今日の皆さんの貴重な意見が、市の行政に反映されることをご期待申し上げながら、この講演を終了いたします。

手話通訳をしてくださった方、要約筆記の方々、本当にどうもありがとうございました。みんな盛大な拍手を。ありがとうございました。それでは最後になります。お礼の言葉と、それから閉会の言葉を、ボランティア連絡協議会副会長より申し上げます。

V連副会長：ボランティア連絡協議会の副会長をしております、マキノキョウコと申します。今日は85名以上の方のご参加をいただきまして、本当にうれしくっております。北村先生には、大変具体的で分かりやすいお話をありがとうございました。

お話の頭に、災害時要援護者という言葉がありましたけれども、私たち、普段活動しております、障害のある方、高齢の方というのはすぐ頭に來ますけれども、妊婦さんというのは、ちょっとあの、考えつかなかったんですね。そういうことがいっぱいあるかと思えます。

今、時期的にノロウイルスとかインフルエンザとかいうのがはやっておりまして、そんな方も避難所へお連れしていいかどうか、ということも大きな問題かと思えます。昨日までお元気だったのに「今日はちょっと具合悪いの。ちょっと人にうつすかもしれない症状」という方が現れた時にどうするか、ということも、普段、考えてはいなかったことなど、あらためて勉強しないといけないことがいっぱいあるなっていうふうに思いました。

本当にいいお話、ありがとうございました。これで今日の講演会を終わりにしたいと思います。

司会：今日その資料も含めてですね、全ての段取りをしていただきました先生に、皆さん、盛大な拍手を、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

(録音終了 00 : 49 : 22)

参考資料

・東京都における障害者団体調査の結果～災害の発生に備えて～：
[http://www.metro.tokyo.jp/INET/CHOUUSA/2012/06/DATA/60m6p300.pdf#search=%E6%9D%B1%E4%BA%AC%E9%83%BD%E3%80%81%E7%81%BD%E5%AE%B3%E6%99%82%E8%A6%81%E6%8F%B4%E8%AD%B7%E8%80%85%E3%80%81%E8%AA%BF%E6%9F%BB'](http://www.metro.tokyo.jp/INET/CHOUUSA/2012/06/DATA/60m6p300.pdf#search=%E6%9D%B1%E4%BA%AC%E9%83%BD%E3%80%81%E7%81%BD%E5%AE%B3%E6%99%82%E8%A6%81%E6%8F%B4%E8%AD%B7%E8%80%85%E3%80%81%E8%AA%BF%E6%9F%BB)

・人工呼吸器：<http://www.metro.tokyo.jp/INET/OSHIRASE/2008/03/20i3a400.htm> (2008.)
<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/joho/soshiki/hoken/shippei/oshirase/saigaijis>

[iennsisinn.html](#) (2012. 3.)

・東京都防災(2007. 7.)

http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/joho/soshiki/soumu/soumu/oshirase/saigai_youengosya.html

・東京都心身障害者福祉センター (2012. 12.)

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/shinsho/saigai/index.html>

・セイフティーネットプロジェクト横浜 (社福) 横浜市社会福祉協議会障害者支援センター

<http://www.yokohamashakyo.jp/sientcenter/safetynet/safetynet.html>

参加者の反響：あかね通信 2013.1.17

<http://blogs.yahoo.co.jp/akanetuusin/63793450.html> より

市内の福祉避難所の委託を受けた国立リハビリテーションセンター内の避難場所を見学し、講演会を聞きました。昨年の「要援護者（災害弱者）への対応」の続きです。

講師は国リハの研究員である北村弥生氏、長年障害児のための研究をされている方です。

見た目では障害が分かりにくい耳の不自由な方や軽度発達障害の方が、必要な支援を受けるための工夫、

ヘルプカード（保険証くらいのサイズ）に「手話か筆談をお願いします」
とか「体に触られることが苦手です」「（ ）にアレルギーがあり、食べられません」
「移動の時に誘導してください」などを書いて携帯して、困った時、必要な時に見せる。

「避難場所のみなさんをお願いしたいこと」

- ・ 体育館の通路などは、車いすが通れる幅（最低90cm）
以上は確保してください。
- ・ 状況の判断がつかず、大きな不安を抱いたり、
パニックを起こしやすくなる人もいます。
気持ちを落ち着かせるための行動かもしれません。
しばらくの間見守ってください。
- ・ 混乱が大きい時は体育館以外の教室など静かな場所に移動し
落ち着くまで見守ってください。
などの注意書きも参考になります。

「コミュニケーションボード」にはひらがなと英語と絵がいくつか書いてあり、「はい YES」
「トイレ（絵）Restroom」「手当（絵）Care」などとわかりやすく書かれている。障害の有無にかかわらず、外国人や子どもにも便利だ。

肝心の避難場所はすごく寒かった。大雪の後の寒波の中、停電だったらぞっとする。人が大勢集まれば多少暖かくなるだろうか。ここが本当に福祉避難所として適切なのか。確かにバリアフリーではあるが・・・

だだっ広い体育館とあまり変わらない。段ボールの壁で仕切るとは思うが、虚弱な高齢者にはかなり厳しい避難所暮らしになりそうだ。そして住宅地からは遠い。福祉避難所としての準備はこれから。危機管理課に要請することが沢山ある。 (N I)

III. 研究成果の刊行に関する一覧表
書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
前川あさ美	第1章 臨床・発達から見た災害・危機.	日本発達心理学会	発達科学ハンドブック 第7巻「災害・危機と人間」	新曜社	東京	2013	印刷中
前川あさ美	「命を守るために」準備編①.	日本自閉症協会	2011・3・11 東日本大震災を受けて 自閉症の人たちのための防災・支援ハンドブック 自閉症のあなたと家族の方へ		東京	2012	p. 6
北村弥生	マルチメディアデジタル版「2011・3・11 東日本大震災を受けて 自閉症の人たちのための防災・支援ハンドブック 自閉症のあなたと家族の方へ」	日本自閉症協会	2011・3・11 東日本大震災を受けて 自閉症の人たちのための防災・支援ハンドブック 自閉症のあなたと家族の方へ	(電子図書) 国リハHPより公開		2013	pp.
北村弥生	マルチメディアデジタル版「2011・3・11 東日本大震災を受けて 自閉症の人たちのための防災・支援ハンドブック 自閉症のあなたと家族の方へ」	日本自閉症協会	2011・3・11 東日本大震災を受けて 自閉症の人たちのための防災・支援ハンドブック 自閉症のあなたと家族の方へ	(電子図書) 国リハHPより公開		2013	pp.
北村弥生	マルチメディアデジタル版英語版「2011・3・11 東日本大震災を受けて 自閉症の人たちのための防災・支援ハンドブック 自閉症のあなたと家族の方へ」	日本自閉症協会	2011・3・11 東日本大震災を受けて 自閉症の人たちのための防災・支援ハンドブック 自閉症のあなたと家族の方へ	(電子図書) 国リハHPより公開		2013	pp.

北村弥生	マルチメディアデ イジー英語簡易版 「2011・3・11 東日 本大震災を受けて 自閉症の人たちの ための防災・支援 ハンドブック 自 閉症のあなたと家 族の方へ」	日本自閉症 協会	2011・3・11 東 日本大震災を受 けて 自閉症の 人たちのための 防災・支援ハン ドブック 自閉 症のあなたと家 族の方へ	(電子図 書) 国リ ハ HP より 公開		2013	Pp
------	--	-------------	---	--------------------------------	--	------	----

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
前川あさ美	東日本大震災と発達障害	東京女子大学心理臨 床センター紀要	3号	印刷中	2012
北村弥生	障害者の防災対策とまち づくりに関する研究.	いとしご (日本自閉 症協会会報)	137	12	2012
阿部叔子、白井和 子、北村弥生	「自閉症のひとたちのた めの防災ハンドブック」 の編纂と東日本大震災に おける活用	国リハ紀要	32	27-34	2012

口頭発表

発表者氏名	タイトル名	学会名等	年月日	場所
北村弥生	一人ぼっちをつくらない	新所沢地域福祉 協議会	2012-10-01	埼玉
Kitamura, Y., Abe, Y., Shirai, K. Kawamura, H	Compilation of "Disaster Prevention Handbook for People with Autism" and its Use in the Great East Japan Earthquake	Rehabilitation International	2012-10-31	Inchon, Korea
北村弥生	災害時要援護者支援について	所沢市ボランテ ィア福祉協議会	2013-01-16	埼玉
Kitamura, Y	Good practices of disaster preparedness for persons with disabilities	Japan-U. S. workshop of the support of persons with disabilities in case of disasters	2013-03-14	Washington D. C., U. S. A.
北村弥生, 白 神晃子	地域における障害者の災害準備と 意識	日本保健医療社 会学会	2013-5-18/19	埼玉
前川あさ美	子どもの心的外傷・PTSD症状 と対応のポイント	横浜リハビリテ ーションセンタ ー	2012-11-08	横浜
前川あさ美	発達障害への理解と支援	京都教育大学	2012-12-15	京都

前川あさ美	発達障害と震災	宮城県仙台市発達障害支援センター「えくぼ」	2013-02-27 2013-03-10	宮城
前川あさ美、深井敏行、野末武義	震災後の社会における子どもの発達と支援「震災体験と子どもの発達支援」	日本発達心理学会大会	2013-03-16	名古屋
Kawamura, H	Accessiblity and Technologies	High-level Meeting of the General Assembly of Disability and Development	2012-09-12	New York, U. S. A.
Kawamura, H.	Requirements for life-saving information to trigger right action to save lives at severe disasters: lessons learned from 11 March 2011 Disasters in Japan.	Japan-U. S. workshop of the support of persons with disabilities in case of disasters	2013-03-14	Washington D. C., U. S. A.
細川淳嗣、深津玲子、斗内沢邦男、東江浩美、鈴木繭子、北村弥生	大災害時における特別な支援ニーズを持った被災者に対する情報提供に関するプロジェクト	東日本大震災ビッグデータワークショップ Project 311 報告会	2012-10-28	東京
細川淳嗣、深津玲子、斗内沢邦男、東江浩美、鈴木繭子、北村弥生	大規模災害時における特別な支援ニーズを持つ人への情報提供のあり方の検討	情報処理学会	2013-3-8	宮城
東江浩美	災害時の発達障害児・者支援	平成 24 年度第 1 回発達障害者支援センター職員研修会	2012-05-14	東京
東江浩美、鈴木さとみ、金樹英	学校の災害時対応における発達障害児・者支援に求められること	東京都立桐ヶ丘高校前期校内研修会	2012-05-31	東京
東江浩美、鈴木繭子	災害時の発達障害児・者支援について	埼玉県発達障害児・者災害支援研修会	2013-01-28	埼玉
東江浩美	災害時支援について.	発達障害者支援関係報告会	2013-03-01	東京

